1.　評価結果概要表

評価確定日　平成20年　11月　11日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600406
法人名	有限会社　政経
事業所名	グループホーム　豊田長藤の家
所在地 （電話番号）	磐田市上新屋483－1 （0538－34－9000）

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成20年7月26日

【情報提供票より】平成20年6月30日）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15　年　12　月　15　日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27　人
職員数	21　人	常勤 18 人，非常勤 3　人，常勤換算　16．8 人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨　造り	
	3　階建ての　1 階　～　3 階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	35,000　円		その他の経費（月額）	10,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円　　1ヵ月　30,000　円			

（4）利用者の概要（平成20年6月30日現在）

利用者人数		25 名	男性	5 名	女性　20 名
要介護1		4　名	要介護2	2　名	
要介護3		11　名	要介護4	7　名	
要介護5		1　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	87 歳	最低	60 歳	最高　97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	松原内科呼吸器科医院　おぐら歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームのある豊田町は「熊野の長藤」の観光名所をはじめ、香りの博物館、図書館など文化的公共施設が多い地域である。運営理念には「地域と共に歩む笑顔あふれるなごみの家」を掲げ、近隣の小中学校や保育園とはイベントの際には互いに招き合うなど交流しており、地域住民との関わりを大切に、地域に根ざしたホームを目指している。運営推進会議が定期的に開催されるようになり、幅広い立場の人々の参加による情報交換を積極的に行うなど、前回調査での指摘項目はほぼ達成されていた。管理者をはじめ職員はより良いサービスの提供に向け意欲的に取り組んでいるホームといえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

昨年の指摘事項は殆ど改善されていた。特に地域密着型の理念とその共有について「感謝の気持ちを持った介護」に加え「地域と共に歩む　笑顔あふれるなごみの家」を新しい理念に掲げている。職員の会話から「地域と共に・・」という言葉が随所に聞かれ、地域に根ざしたホームを目指そうという理念は職員間で共有され、着実に浸透している。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

管理者や職員は評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組む姿勢がある。今後は3ユニット毎に評価を行い、夫々の特徴や課題を見出せるような取り組みが望まれる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は2ヵ月に1回開催している。メンバーには利用者家族、長寿推進課職員、消防署、交番長、自治会長、保育園園長など幅広い立場からの参加を呼びかけ、ホームの様子や外部評価結果の報告と共に地域の情報を共有しホームの運営に反映している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態は、お小遣いの残金報告と共に毎月報告している。家族アンケートでは定期的な外出を期待する意見が見られた。ホームが取り組んでいる事実が家族に伝わり理解していただけるよう、毎月の行事予定表や外出した際の写真など、金銭管理状況と共に報告するなど家族への情報提供への工夫が望まれる。管理者は苦情は「宝」と考え迅速に対応する前向きな姿勢がある。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

近隣住民とは散歩を通じて挨拶や会話が日常的に行われ、野菜を届けていただくなど馴染みの関係がある。運営推進会議での情報交換のもと、消防署の協力を得ながら定期的に避難訓練を実施している。玄関にはひまわり保育園のぱんだ組園児より夕涼み会の招待状が掲示され、積極的な地域の行事への参加を通じた地域住民との交流に努めている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「感謝の気持ちを持った介護」に加え「地域と共に歩む笑顔あふれる　なごみの家」を新しい理念として掲げ、地域密着型サービスを提供する親しみあるホームを目指し取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の会話からは「地域の方と一緒に・・」という言葉が随所に聞かれ、地域に根ざしたホームを目指そうという理念は職員間で共有され、着実に浸透している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とは散歩を通じて挨拶や会話は日常的に行っており、野菜を届けていただくなど馴染みの関係がある。運営推進会議で情報交換の下、消防署の協力を得ながら避難訓練を実施したり、ひまわり保育園での夕涼み会に招かれるなど、地域の行事への参加を通じて地域住民との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価を実施する意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組む姿勢がある。	○	自己評価は3ユニット毎に行い、夫々の特徴や課題を見出せるような取り組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催している。メンバーには利用者家族、長寿推進課職員、消防署、交番長、自治会長、保育園園長など幅広い立場からの参加を呼びかけ、ホームの様子や外部評価結果の報告と共に防災訓練計画の話し合いや地域行事などの情報を共有しホームの運営に反映している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	長寿推進課職員は運営推進会議に毎回参加している。後期高齢者医療制度の説明会をするなどホームへの働きかけがある。また、管理者は2ヶ月に一回開かれる長寿推進課での会議や介護事業所連絡会等に出席し運営について相談したり、得られた情報をサービスに取り入れるようにしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしぶりや健康状態などは、お小遣いの残金報告と共に毎月報告している。しかし家族アンケートでは定期的な外出を期待する意見が見られた。	○	事業者として取り組んでいる事実が家族に伝わり理解していただけるよう、毎月の行事予定表や外出した際の写真と共に金銭管理状況等を報告するなど、家族への情報提供を工夫されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には「ご意見BOX」が備え付けられ、家族の意見を取り入れるようにしている。入居時には苦情相談窓口について丁寧に説明し、重要事項説明書に明記している。苦情は「宝」と考え迅速に対応する管理者の姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の異動は一名を基本にしている。職員はユニットを超えた日常的な関わりを通して、利用者と馴染みの関係を築いており、異動時の利用者への影響が最小限に留められるようにしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修制度により研修が義務付けられている。外部研修の案内は適宜行なわれ、5月には認知症の研修に7名が参加していた。法人の地域責任者が毎月1回勉強会を開くなどホーム内での研修も活発に行っている。	○	利用者は年々重度化しつつあり、より専門的な知識・技術が求められている。介護経験の長い職員には介護福祉士資格取得などキャリアアップへの意欲を駆り立てるような事業所の支援を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネージャー研修で情報交換・交流を行っている。また、管理者は法人グループホーム50数箇所が集まる会議での情報交換の機会を活かして地域の同業者の動向を探り、より良いサービスに繋がるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族には入居前にホームを見学をしていただくようにしている。また、ケアマネージャーからの事前情報やアセスメントシートは職員間で共有し、少しでも早く馴染みの関係を作る事が出来るようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の盛り付け、配膳は利用者ひとり一人の力に合わせて行えるよう支援している。職員はソファーに腰をかけ、利用者と一緒に洗濯物をたたんでいた。敷地内の畑ではトマト等が栽培され、畑仕事が好きな利用者は職員と一緒に水やりや草取りをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の何気ない会話の中で利用者の思いを汲み取るよう努めている。また、意思疎通が難しい方は面会時に家族から情報を得ている。面会の少ない家族には電話で意見や要望を確認し、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを継続できるよう支援している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常の中で利用者の思いや意向を聞き、カンファレンスを開いて職員間で情報を共有し、その人らしい暮らしが出来るよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化のあった時には随時見直しを行なうようにしているが、定期的な見直しがされていないものが見られた。また、面会時には家族に声をかけ希望や意見を取り入れるよう取り組んでいるが、家族アンケートでは半数の家族が説明は受けたが話し合いはないと回答していた。	○	介護計画の見直しは定期的に行い、家族へは説明と共に意見を聞いたり思いを汲み取れるような言葉かけを工夫するなど、双方向での情報交換のもと介護計画を見直し作成されるよう期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期の見取りの支援など、利用者と家族の状況に応じて柔軟性のある対応をしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望するかかりつけ医への受診は家族の協力を得ながら行っている。利用者の急な状態変化があった時は家族の意向を確認した上で、速やかに協力医療機関への受診が出来るよう対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には家族と終末期のあり方について話し合い、ホームの対応や方針を説明している。日頃から利用者の健康状態を把握し、変化のある時は早めに家族に伝え、かかりつけ医を交えた話し合いをしている。最近では状態が急変した利用者の家族からホームでの見取りを希望する申し出があり、管理者は急遽、協力医や訪問看護と相談し24時間体制の医療連携による看取りを実践した。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録など個人の情報は事務室に保管されている。居室へ入る時は必ずドアをノックし、利用者の了解を得て入室している。職員は利用者の言動や行動に寄り添いながら、人生の先輩として尊厳ある対応が出来るよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりを強制することなく、利用者の意向を大切に自己決定できるよう支援している。職員は利用者一人ひとりの生活のペースに添いながら、何気ない会話の中で希望を汲み取るようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片付けは利用者と一緒に行っている。食事は外注しているが畑で育てた新鮮な野菜がその時々に食卓を彩どり、利用者の楽しみのひとつとなっている。箸や湯飲みは利用者が使い慣れたものを使用している。	○	職員と利用者が一緒に食事を作り、同じものを味わえるような食事環境への取り組みが週1回でも始められることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回午後に行っている。利用者ひとり一人の希望に沿いながら順番を変えるなど、気持ちよく入浴して頂けるよう声をかけ配慮している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的に食事の盛り付けや片付けなど利用者一人ひとりの力が発揮できるよう支援している。ホーム裏の畑ではなすやトマトが植えられ、利用者は収穫の日を楽しみに職員と共に水やりや草取りなど手入れをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日課として行っている。閉じこもりがちな利用者にはさりげなく声をかけ、戸外での気分転換が図れるようにしている。季節に応じて花見やドライブ、外食等外出する機会は多い。家族の参加や協力があり、利用者の楽しみとなっている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はせず、利用者が自由に出入りできるようにしている。職員は外に出ようとしている利用者に気づくと静かに見守り、さりげなく声をかけると一緒にベンチに腰を下ろしていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で定期的に防災訓練を行っている。また、ホーム独自で緊急時通報訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練を行い、万一の時に対応がスムーズに行えるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎回記録し、職員間で情報を共有している。水分摂取状況の全員の記録はされていない。利用者の食事量に変化がある時は、介護記録や申し送りノートに明記し、ひとり一人の健康状態に注意している。協力医療機関で定期的な血液検査を行い、栄養状態の確認と指導を受けている。	○	高齢者にとって水分補給は大変重要である。食事量とともに毎日の水分摂取量を記録し、職員間で情報を共有することは、異常の早期発見と健康管理に繋がると考える。大まかでも全員の記録を残せるよう工夫されたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは明るく、開放的でゆったりとした空間となっている。2つのソファーは利用者全員が腰をかけるだけのゆとりがある。花が植えられた玄関前にはベンチが置かれ、利用者が気軽に外気に触れくつろげるようにするなど、利用者一人ひとりが思い思いの場所で自由に過ごせるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や箪笥、家族の写真、日用品などは馴染みのものを用意していただくよう家族の協力を得ている。自作のちぎり絵に囲まれた居室では利用者が作品の制作に没頭していた。		